

【2】見守りネットワークの構築

見守りネットワークづくり事業 (越前町)

基礎情報

実施地域	越前町
実施主体	越前町
所在地	越前町西田中13-5-1
代表者	町長 内藤 俊三

活動を始めたきっかけ

- ・地域の人との交流が少なくなって孤立しがちな高齢者等が増加してきている。
- ・民生委員、老人クラブ家庭相談員がそれぞれに見守りを実施しているが、それぞれの役割や活動状況が不明瞭。
- ・地域の福祉関係者の連携が取れていないため、ネットワーク体制の確立が必要である。

見守り活動の担い手

- ・地区区長
- ・民生委員
- ・福祉推進員
- ・老人家庭相談員
- ・地区班長等
- ・隣近所

見守り対象者

- ・一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯等
- ・障害者
等

活動概要

- ・区長会（4地区）・民生委員会（4地区）会議にて「見守りネットワークづくり」について説明・依頼。
- ・区長宅へ直接赴き、民生委員や福祉推進員などと協力し、避難支援者【見守り者】を確保・見守りネットワークづくりを依頼。
- ・要援護者台帳リストの活用、見守りネットワークづくりのてびきを作成・提供し構築支援。
- ・見守りの必要性や地域のつながりの重要性を認識するための検討会にて、見守りネットワークづくりについて説明。
- ・緊急時に備えて、関係者（民生委員、区長、親族等）への連絡に必要な情報を把握。
- ・見守りの中で気になる変化を発見した場合に、迅速に関係者へつなぐ体制を整備。
- ・区ごとに、福祉マップを活用した見守り活動を実施。
- ・訪問や声かけ、さりげない見守り活動等を通して、福祉問題の早期発見に努める。

見守りが必要な人の把握方法

- ・町が対象者を抽出した「災害時要援護者台帳」登録対象者宅へ民生委員が訪問調査し、また民生委員等が必要と思われる方へも同調査を行い、登録された情報を区長、民生委員が情報共有。

活動の成果・異変発見事例

- ・見守りネットワーク構築区数 104 / 118 (平成26年3月末現在)
- ・町内を行政区に分けて連携して見守ることで、現状を把握でき、支援者の負担が減っている。

工夫した点

- ・「災害時要援護者台帳登録者」を基に情報共有をしやすいするため、自宅(周辺)地図情報を貼付。
- ・見守りネットワークづくりのための手引きを作成。
- ・区の地域性にあったネットワークづくりを推進。
- ・見守り対象者には、さりげない見守りのなどの意識付。

事業の財源

- ・平成23年度は、地域支え合い体制づくり事業補助金を活用。
- ・次年度以降に係る経費は町の一般財源。

課題

- ・近隣住民や事業所との協力体制づくりや見守り活動の継続・発展。
- ・見守りネットワークづくりに消極的な区への構築促進。
- ・対象者が多数の区への構築促進

今後の目標

- ・全町内での見守りネットワーク構築を目指す。